

# 教科書展示会に行ってみて

「自由社・育鵬社の教科書を群馬の子どもたちに手にさせたくない」という強い思いを持った人たちが県内の展示場を見て回った記録の一つです。この間、県内の民主団体が、高崎市教委・安中市教委・伊勢崎市教委に申し入れ活動を行いました。保守色の強い群馬で、今のところ神奈川・栃木・埼玉のような動きはありませんが、常に注視していく必要があります。  
(教育ネットワークぐんま事務局長／フォーラム運営委員 針谷正紀)

## 木村 香織（高崎市在住の母親）

「教科書展示会はいつからやるのですか？」4月上旬、教育委員会に問い合わせると「担当者がいなくてわからない」云々で教えてくれません。ふと思いついて、会場となる合同庁舎に電話するとすぐわかり、無事に見学に行くことができました。

例年通り閑散とした会場で、ひと通り回ったあと、社会科コーナーの椅子に陣取り、気付いたら4時間も読みふけてしまいました。話題の自由社、育鵬社があまりにも面白かったからです。例えば自由社の「宋の皇帝が“君主の久しい世襲が理想である。戦乱続きだとそうはならない”と言った」話。世襲は民主的でないってちゃんと教えないと、世襲議員がどんどん増えますよ。

この2社によると日本の歴史はこうです。日本の国は神の子孫である天皇様がよく治めてきた。天皇様は大変立派な方だ。(育鵬社の八木教授は、代々の天皇には神武天皇のY遺伝子が伝わっており、それを守っていくことが日本の使命だと考えているが、さすがにそこまでは書いていない)。昔から日本人は公のために命を賭ける気概を持ち、ひとたび戦争が起きるとよく戦う英雄で、アジアを白人から解放したアジアの星である。旧憲法は大変すばらしかったが、現憲法は大いに問題があり、そのせいで湾岸戦争にも参加できず情けないことだ。アイヌ文化のようなマイノリティはこの国には存在せず、男女平等という

概念もない。そういう教科書です。

全体的に育鵬社はマンガチック、自由社はやや情報量が少ないか？それが「読みやすい」「勉強しやすい」と思わせる手段と言えなくもありません。

帝国書院版は男女平等にきちっと触れ、教育出版社版は原水爆禁止運動の見出しがあります。特にこの教育出版社は最終のページが「平和を願う人々」という見開きになっていて、第五福竜丸や禎子の像の写真を載せ、平和な世を作ってほしい願いを君たちに託す、と声がきこえてきそうな終わり方で感動的です。もし戦争が起こったら国のために戦うかというアンケートでYESと答えた数は日本が最低であると、最後に非難がましく書いてある自由社とはなんとという差でしょう。

人が次の世代に生きのびていくために平和がどうしても必要なのだ、そう学べる教科書を今、子どもに渡してあげたいのです！！

<注>義務制の学校現場には高校と違って、教科書採択権がありません。採択の権限は市町村教育委員会にあります。群馬県の採択地区数は9カ所、地区内の市町村は通常、共同採択を行うため「採択地区協議会」を設けて、調査・研究を行い、その結果を教育委員会に答申します。しかしこの答申には現場の教員の意向が充分反映しているとは言えず、他県には全く教員の意向を無視して教育委員の多数決で決めてしまうというところもあります。  
(文責：針谷 正紀)